

新興住宅地における「地域コミュニティ」の形成過程 —八王子市H中学校区におけるコミュニティ・スクールの役割

政策・メディア研究科 ネットワークコミュニティ所属
上野詩歩

1. 概要
2. 背景
3. リサーチ・クエスチョン
4. 調査設計
5. 結果
6. 結論
7. インプリケーション

新興住宅地 松本中学校区 (H中学校仮名)

- 1990年に一斉に入居開始
- 計画人口 22,000人
- 2つの小学校が配置されている
- 市が設置した健全育成の会(青少対)が唯一の地域組織
→ 町会・神社・祭りが無い…「地域が無い」

「.....ほんとにOから地域をつくりあげたな、という感じが私はしているの
で。」

(松本中副校長)



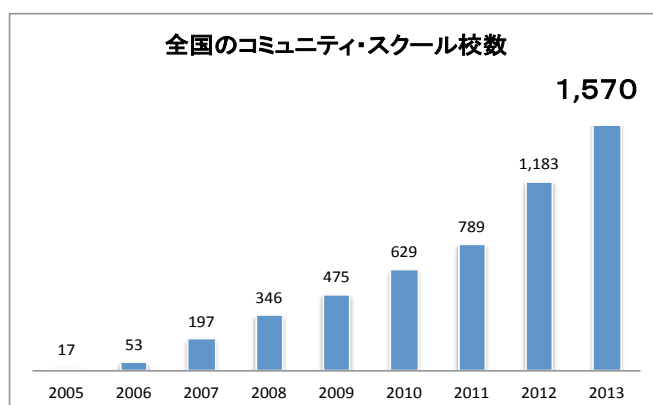
新興住宅地でCSを中心に地域ができた特異な事例

14/01/29

2

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)

- 「学校運営協議会」を持つ公立学校
- 地域の代表が校長とともに学校運営に参画する
- 「地教行法」の改正により2005年度より施行
- 設置者は市区町村教育委員会



文科省は、2018年までに全国の1割(3000校)をSCにする方針

学校が地域とどのように連携するかが問われている

14/01/29

3

住民による地域組織がない

設立年度	学校	住民団体数	子ども会	スポーツ団体(大人)	スポーツ団体(子供)	防災団体	防犯団体	野外活動団体	NPO	その他
1947	K	7	○	○	○	○	○	○	○	
1947	G	6	○	○		○	○			住民協議会 社会福祉協議会
1947	A	5	○	○	○	○	○			
1946	E	4	○	○	○		○			
1985	F	4	○	○		○	○			
1947	J	4	○	○	○	○				
1947	C	3		○	○		○			
1983	I	2.5	○			○*	○			
1989	B	2	○			○				
1983	D	1	○							
1994	松本	0								

表: 自治会以外の地域住民が自主的に管理運営を行う活動**

* 準備中を0.5と数えた。 ** 各学校において2人以上の委員が「ある」と答えた場合に○をつけた。

「地域がない」のに、CSがあるのはなぜか

14/01/29

4

学校が「地域コミュニティの拠点」になっている

設立年度	学校名	「実現している機能」数	「校長の学校運営に対する第三者評価」機能	「学校施設の有効利用」機能	「地域人材の活用」機能	「地域の子育てセンター」機能	「学習教材としての地域資源の活用」機能	「地域の生涯学習・活動拠点」機能	「教職員の意識改革」機能	「学校の学習環境の向上」機能	「防災意識の向上」機能	「小中間の連携」機能
1994	松本中	9	○	○	○		○	○	○	○	○	○
1983	D	5			○		○		○	○	○	
1989	B	4	○		○				○			○
1946	E	4	○						○	○	○	
1985	F	4	○		○				○	○		
1947	G	4	○		○					○		○
1947	C	3			○		○			○		
1947	K	3			○		○			○		
1947	A	2	○						○			
1947	J	2	○						○			
1983	I	1										○

「中学校が多機能化」されたのはなぜか

14/01/29

5

リサーチ・クエスチョン

RQ1 「地域のつながり」が希薄だった松本中学校区で
学校を中心とした地域コミュニティが形成されたのはなぜか

RQ2 学校から「地域」はつくれるのか

14/01/29

6

調査設計1

ケーススタディで得られた知見から一般化を試みた

ケーススタディ(定性)

松本中学校関係者を中心にのべ27名に聞き取り調査

- 松本中学校「学校運営協議会」の傍聴
- 松本中学校に関するイベント等の見学・参加
- 松本中学校に関する資料
(協議会配布資料、校長による研究課題、地域イベント告知資料、報告書)
- フィーマルインタビュー 10名
(教育委員会担当者、協議会委員、元現校長・現教職員、保育園園長等)
- ヒアリング調査 17名

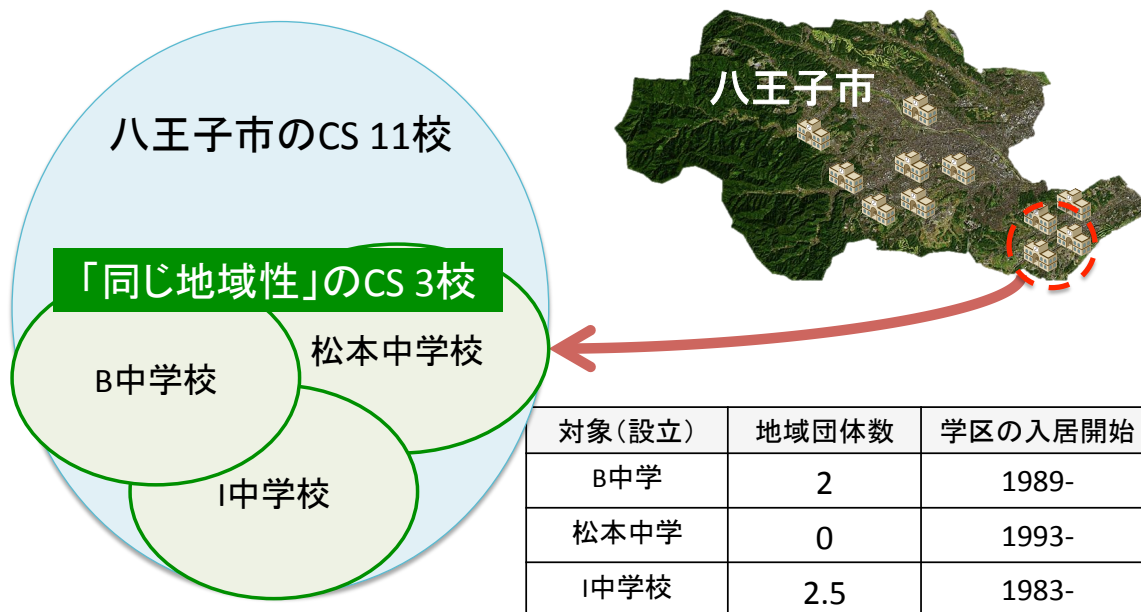
質問紙調査(定量)

市教委の協力のもと市内11中学校*の協議会委員(102名)に郵送

- 対象は、校長11人を含む各学校の協議会委員102人
- 校長向け(全49項目)と協議会委員向け(全30項目)の2種類を実施
- 回収率70%
- 2013年11月12日～同年12月23日

* 2012年までにコミュニティ・スクールに指定された中学校

八王子市内全コミュニティ・スクール*に質問紙調査を実施



「同じ地域性」とされる3校を対象に比較、一般化を図る

* 2012年までにコミュニティ・スクールに指定された中学校

14/01/29

8

結果

きっかけは校長の交代

前校長(4代目)が当時の青少対会長とPTA会長を繋いだことが、この地域のエポックメイキングですよね。
(H中学校副校長)

2つの改革

- a. PTA組織改革
- b. 教職員の組織改革

仕組み化 I

- ①保護者同士②教職員同士③保護者と教職員
- 「3種類のつながり」の仕組み化

中心メンバーの確立

PTA役員の「意識づくり」の徹底

仕組み化 II

コミュニティ・スクールの導入



地域(松本中学校区)の変化

14/01/29

9

結果1-1

RQ1 松本中学校を中心に地域コミュニティが形成されたのはなぜか

a. PTA組織改革(2006-2007)

2つの改革

行事等の見直し

ニーズ調査

「PTAサポーター制度」
の創設

- 14種類のサポーター (詳しくは参考資料)
- 登録制
一時期は「全員登録制」→ 自主登録制
- ほぼ50%保護者がいずれかのサポーターに登録

何が必要で何が必要でないかを精査したんですね、PTAサイドで。だから一年目はものすごい大変だったんですけど。(当時PTA会長Kさん)

本部委員や学年委員だけが頑張るんじゃないかって、…(登録して)何かやろうって考えている人が凄く多いと思います。(現PTA学年委員)

14/01/29

10

結果1-2

RQ1 松本中学校を中心に地域コミュニティが形成されたのはなぜか

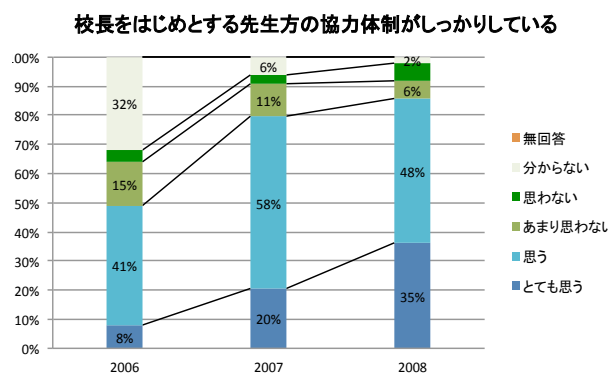
b. 教職員組織改革(2006-2008)

2つの改革

学校経営理念の提示

学校評価の全面改定
人事戦略の実行

連携体制の構築



半分異動しました。半分でたから半分入れた、それは新規採用です。
僕は自分の人事構想で、その時に教育委員会密に連絡をとって、優秀な人材を松本中によこしてくれと.....(4代目校長)

14/01/29

11

結果2

「3種類のつながり」の仕組み化

仕組み化 I

①「保護者同士のつながり」のしくみ化

☞「PTAサポーター制度」

②「教職員同士のつながり」のしくみ化

☞「教職員の連携体制」

③「保護者と教職員のつながり」が保たれている

また、校長は①、②、③のつながりをつくり、
保つ役割を果たしている。

松本中学校独自の工夫を実施していた

14/01/29

12

結果3

PTA役員の「意識づくり」の徹底(2006-)

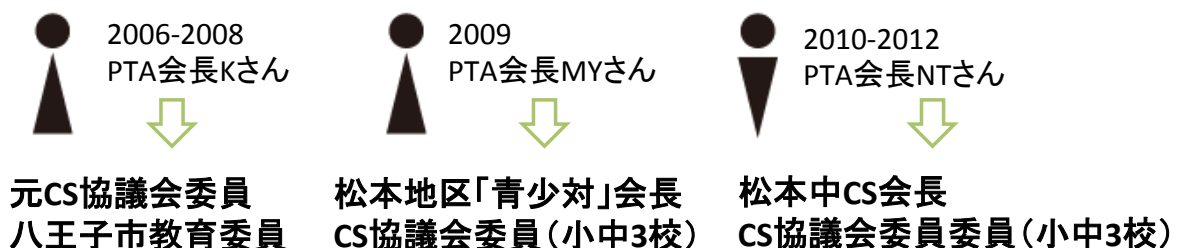
中心メンバー
の確立

PTAの役員は、どれだけこの地域に求められているかとか、それを前にちゃんと
耕しておかないと……つまり、「意識づくり」。

(4代目校長)

(昔は)まず全部のクラスから代表をだして、そこで“御旋回”って感じだった。

(当時PTA副会長)



共通点

もともと学校教育に興味関心あったわけではない

14/01/29

13

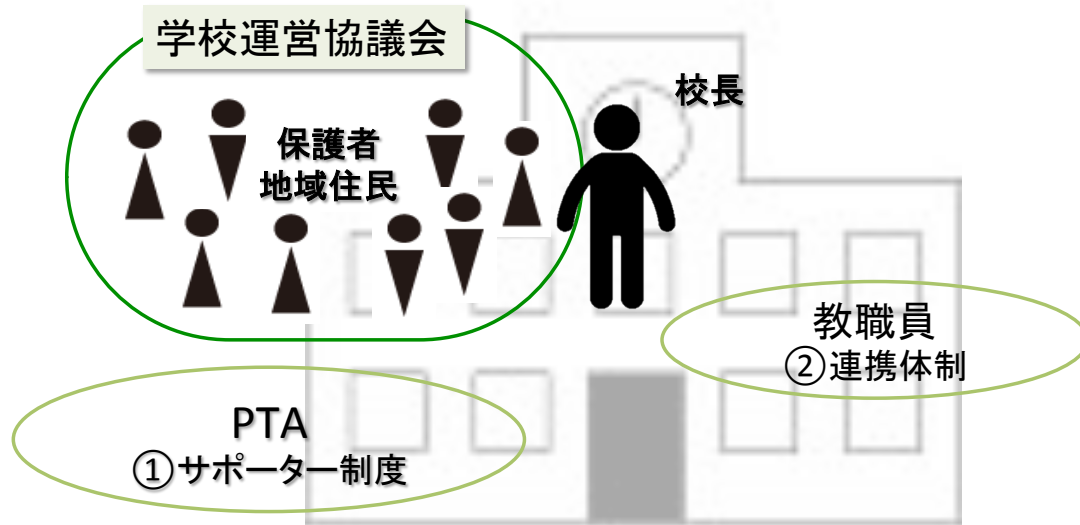
結果4

RQ1 松本中学校を中心に地域コミュニティが形成されたのはなぜか

コミュニティ・スクールの導入(2010-)

仕組み化Ⅱ

それだけ(保護者・地域の)ニーズに対応できる人材が学校に集まってきたとい
うことです。(4代目校長)



法的制度を活用し、住民が学校運営に参画

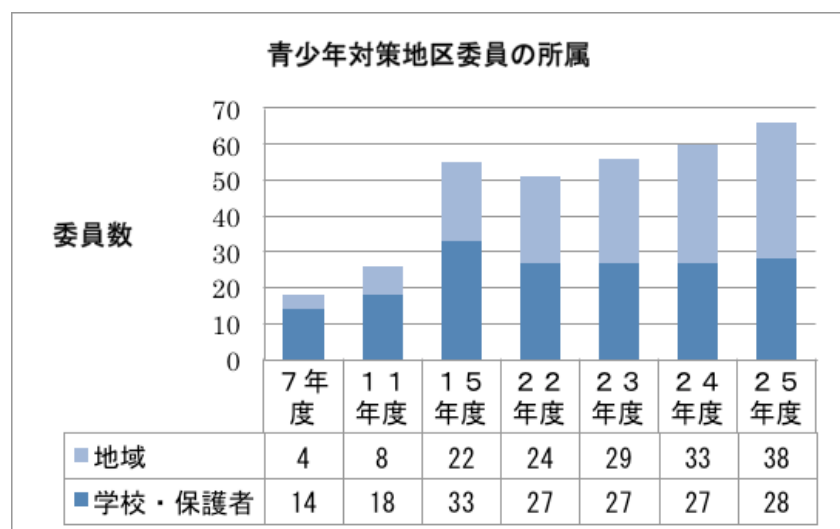
14/01/29

14

結果5-1

RQ2 学校から「地域」はつくれるのか

地域の変化「青少対」(2010(H22)-)



学校、保護者(PTA)

地域(保育園・学童・町会・自治会等の代表、育成指導員、民生委員、保護司)

学校関係者以外の地域住民の割合が増加

14/01/29

15

地域の変化 「浄瑠璃まつり」(2012-)



来場者数1,248名
スタッフ347名

松本中学校で地域まつりが開催される

14/01/29

16

ケーススタディから得られた知見

松本中学校区の事例から.....

- 学校を中心とした地域コミュニティの形成された結果、**「学校が多機能化」**されていることが明らかになった。
- 学校を中心とした地域コミュニティは、校長の交代をきっかけとした**「CSの戦略的活用」**によって、形成されたことが明らかになった。

「同じ地域性」とされる B、I、松本中3校を対象に
同様の傾向が見られるのか一般化を図った

14/01/29

17

新興住宅地3校の比較

設立年度	学校	住民団体数	子ども会	スポーツ団体(大人)	スポーツ団体(子供)	防災団体	防犯団体	野外活動団体	NPO	その他
1947	K	7	○	○	○	○	○	○	○	
1947	G	6	○	○		○	○			住民協議会 社会福祉協議会
1947	A	5	○	○	○	○	○			
1946	E	4	○	○	○		○			
1985	F	4	○	○		○	○			
1947	J	4	○	○	○	○				
1947	C	3		○	○		○			
1983	I	2.5	○			○*	○			
1989	B	2	○			○				
1983	D	1	○							
1994	松本	0								

「同じ地域性」とされる B、I、松本中で比較検討

14/01/29

18

新興住宅地3校の比較

設立年度	学校名	「実現している機能」数	「校長の学校運営に対する第三者評価」機能	「学校施設の有効利用」機能	「地域人材の活用」機能	「地域の子育てセンター」機能	「学習教材としての地域資源の活用」機能	「地域の生涯学習・活動拠点」機能	「教職員の意識改革」機能	「学校の学習環境の向上」機能	「防災意識の向上」機能	「小中間の連携」機能
1994	松本中	9	○	○	○		○	○	○	○	○	○
1983	D	5			○		○		○	○	○	
1989	B	4	○		○				○			○
1946	E	4	○						○	○	○	
1985	F	4	○		○				○	○		
1947	G	4	○		○					○		○
1947	C	3			○		○			○		
1947	K	3			○		○			○		
1947	A	2	○						○			
1947	J	2	○						○			
1983	I	1										○

新興住宅地のCSが必ずしも「多機能化」するわけではない

14/01/29

19

新興住宅地3校の比較

質問項目	B中学校	松本中学校	I中学校
実現している機能	4つ	9つ	1つ
校長向け 「実行体制は整っているか」	あまり そう思わない	とてもそう思う	あまり そう思わない
「立ち上げ期」での 校長の交代の有無	CS前(5年) CS後(3年) [交代]	CS前(4年) CS後(3年) [交代]	CS前(0年) [交代]CS後(3年)
④協議会委員と教職員 のつながり*	5.8	7.6	3.6
⑤協議会委員同士 のつながり**	5.5	6.6	5.1

質問紙調査より算出

:「とてもそう思う～そう思わない、分からない」の選択肢を数字(4~1,0)に置き換え、学校ごとの平均値を算出し比較対象とした。

*2項目の合計

**2項目の合計

【校長】1. 協議会委員と教職員が会話をする姿を見かける。

【委員】1. 現在の委員は、貴校の協議会委員としてふさわしい。

【委員】2. ほとんどの教職員の顔、名前、担当教科を知っている。【委員】2. 協議会以外でも会話をしたりご飯を食べたりする。

松本中学校が最も「CSの戦略的活用」を実現している

14/01/29

20

結論

RQ1 「地域のつながり」が希薄だった松本中学校区で

学校を中心とした地域コミュニティが形成されたのはなぜか

校長のリーダーシップによって、「保護者同士、教職員同士、保護者と教職員の3種類のつながり」が仕組み化されていたから

RQ2 学校から「地域」はつくれるのか

CS制度の戦略的活用によって、
地域の自治を目的としたコミュニティに発展する可能性がある

14/01/29

21

インプリケーション

- 松本中学校は、新興住宅地という条件不利な状況下において、「CSの戦略的活用」を実現しためずらしい事例である。ただし、**その手法(3種類のつながりの構築・CSの導入)**は他の地域でも、**条件が合えば(教育委員会の方針等)模倣が可能である**
- 制度面だけではなく、**その活用にとまなう人事(校長の交代等)の対応が必要**であることが明らかになった
- 大規模な新興住宅地において、**学校は、「地域」が形成されるファーストステージとして有効**であることが示された(今後、更なる調査を進めることが必要であるだろう)
- 通常、小学校単位で地域コミュニティは形成されるが、本ケースでは、**中学校単位で地域が出来る可能性を示唆**している

14/01/29

22

今後の課題

- B, I 中学校区において、「3種類のつながり」の仕組み化が実施されているのか更なる検討が必要
- 八王子市以外の新興住宅地において、「CSの戦略的活用」がどのように実現されているのか更なる検討が必要

14/01/29

23

参考文献

- ・ UR都市機構 2008『多摩ニュータウン開発事業誌』―市域編Ⅱ―
- ・ 金子郁容 2008『日本で「一番いい」学校 地域連携のイノベーション』
- ・ 金子郁容 2002『新盤 コミュニティ・ソリューション』
- ・ 倉掛秀人 2010 八王子で考える多摩ニュータウン子育ての課題 多摩ニュータウン研究 第12号
- ・ 佐藤晴雄 2010『コミュニティ・スクールの研究 学校運営協議会の成果と課題』
- ・ 広田照幸 1999『日本のしつけは衰退したか 「教育する家族」のゆくえ』
- ・ 山崎丈夫 2006『地域コミュニティ論』
- ・ 山崎亮 2011『コミュニティ・デザイン ひとつのつながるしくみをつくる』
- ・ ロバート・D・パットナム 2001『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』

Web

- ・ 八王子市教育委員会「地域運営学校について」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kyoiku/kyoikujoho/10195/010196.html>
- ・ 文部科学省 コミュニティ・スクールについて
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm

14/01/29

24

補足資料

PTAサポーター制度

サポーター名	主な活動内容
お昼のサポーター	給食の配膳見守りと昼休みの図書室サポーター
保健室サポーター	保健室での検診の補助
アカデミー準備サポーター	講演会「松木アカデミー」準備
イベントガーデニングサポーター	学校・PTA共催のイベント準備、当日のお手伝い
英語検定サポーター	英検の申込受付、事前勉強会、当日試験監督補助
漢字検定サポーター	漢検の申込受付、事前勉強会、当日試験監督補助
数学検定サポーター	数検のお手伝い
数学学習教室サポーター	数学補習教室の講師アシスタント
ミニコミ誌サポーター	PTAミニコミ誌 編集・発行
地域美化活動サポーター	「青少対」主催の地域をきれいにする活動のお手伝い
学校大掃除サポーター	年2回、校舎の清掃
夜間パトロールサポーター	夜間に不審者対策防犯活動として地域パトロール
もちつき大会サポーター	「青少対」主催の餅つき大会のお手伝い
講演会聴講サポーター	PTA本部に案内が来る講演会の聴講

地域の期待に応える新しい学校づくり(2011)
H中学校長地域運営学校発表会レジュメより筆者抜粋

14/01/29

25

補足資料

質問紙調査リスト(回収率)

学校	協議会傍聴	校長		協議会委員		
		返答数	回収率	校長以外の 委員数	返答数	回収率
A	実施(10月11月12月)	1	100%	8	5	63%
B	実施(10月11月)	1	100%	8	6	75%
C	実施(11月)	1	100%	9	5	56%
D	実施(11月)	1	100%	9	7	78%
E	実施(11月) その場で回収	1	100%	8	8	100%
F	未実施	1	100%	9	6	67%
G	実施(11月)	1	100%	9	6	67%
H	実施(7月9月10月11月)	1	100%	7	5	71%
I	実施(10月)	1	100%	8	5	63%
J	未実施	1	100%	8	4	50%
K	実施(11月) その場で回収	1	100%	8	7	88%
合計		11	100%	91	64	70%

14/01/29

26

補足資料

「学校の多機能化」

問.「貴地域運営学校で「実現している機能」とは以下のうちどれですか。特に当てはまると思うもの全てに○をつけて下さい。」

- a.「校長の学校運営に対する第三者評価」機能（学校運営の改善による学校教育質の向上）
- b.「学校施設の有効利用」機能（図書館・体育館などを地域住民に開放する等）
- c.「地域人材の活用」機能（ゲスト講師・地域特化型授業の実施、教育活動の充実）
- d.「地域の子育てセンター」機能（先輩親と後輩親が子育ての悩みを話し合える場所）
- e.「学習教材としての地域資源の活用」機能（職業体験場所の増加等による教育活動の充実）
- f.「地域の生涯学習・活動拠点」機能（地域住民が、趣味・文化活動を行える場所）
- g.「教職員の意識改革」機能（地域住民との関わりによって、教員自身の意識向上・より多角的な視点から生徒指導が可能になる等）
- h.「学校の学習環境の向上」機能（学習支援ボランティア・専門的な技術の支援の充実）
- i.「防災意識の向上」機能（災害発生時に、地域住民が自主的に行動できる体制を整える等）
- j.「(幼保)小中間の連携」機能（(15年間)9年間を通した教育活動の充実）

14/01/29

27

「学校の多機能化」

問.「貴地域運営学校で「実現している機能」とは以下のうちどれですか。特に当てはまると思うもの全てに○をつけて下さい。」

- a.「校長の学校運営に対する第三者評価」機能（学校運営の改善による学校教育質の向上）
- b.「学校施設の有効利用」機能（図書館・体育館などを地域住民に開放する等）
- c.「地域人材の活用」機能（ゲスト講師・地域特化型授業の実施、教育活動の充実）
- d.「地域の子育てセンター」機能（先輩親と後輩親が子育ての悩みを話し合える場所）
- e.「学習教材としての地域資源の活用」機能（職業体験場所の増加等による教育活動の充実）
- f.「地域の生涯学習・活動拠点」機能（地域住民が、趣味・文化活動を行える場所）
- g.「教職員の意識改革」機能（地域住民との関わりによって、教員自身の意識向上・より多角的な視点から生徒指導が可能になる等）
- h.「学校の学習環境の向上」機能（学習支援ボランティア・専門的な技術の支援の充実）
- i.「防災意識の向上」機能（災害発生時に、地域住民が自主的に行動できる体制を整える等）
- j.「（幼保）小中間の連携」機能（（15年間）9年間を通じた教育活動の充実）